各　位

浦安鐵鋼団地協同組合
景況実感調査委員会

浦安鐵鋼団地景況実感調査結果表
(2026年10月分)

ご協力ありがとうございました。2026年10月分の結果をお送りいたします。よろしくご査収ください。

調査対象 140　　回答 132　　回答率 94.3%

	前　年　同　月　比					
調査項目	10%以上 増加･上昇･好況	やや 増加･上昇･好況	横這い･平常	やや 減少･下降･不況	10%以上 減少･下降･不況	計
売上数量	14社	24社	50社	22社	22社	132社
	10.6%	18.2%	37.9%	16.7%	16.7%	
	(11.5)	(15.3)	(31.3)	(17.6)	(24.4)	
売上高	17社	33社	45社	18社	19社	132社
	12.9%	25.0%	34.1%	13.6%	14.4%	
	(14.5)	(14.5)	(31.3)	(20.6)	(19.1)	
在庫数量	12社	14社	61社	27社	13社	127社
	9.4%	11.0%	48.0%	21.3%	10.2%	
	(6.4)	(16.8)	(42.4)	(21.6)	(12.8)	
販売単価	13社	64社	48社	7社	0社	132社
	9.8%	48.5%	36.4%	5.3%	0.0%	
	(5.4)	(50.0)	(40.0)	(3.8)	(0.8)	
収益状況 (粗利)	18社	30社	54社	19社	11社	132社
	13.6%	22.7%	40.9%	14.4%	8.3%	
	(13.1)	(13.1)	(45.4)	(16.2)	(12.3)	
稼働率 (生産･加工設備)	6社	22社	70社	14社	6社	118社
	5.1%	18.6%	59.3%	11.9%	5.1%	
	(2.6)	(20.0)	(47.8)	(21.7)	(7.8)	
入出庫の トラック台数	5社	25社	74社	17社	9社	130社
	3.8%	19.2%	56.9%	13.1%	6.9%	
	(3.1)	(14.1)	(46.1)	(28.9)	(7.8)	
現在の 景況感	2社	19社	73社	23社	14社	131社
	1.5%	14.5%	55.7%	17.6%	10.7%	
	(0.8)	(6.2)	(53.8)	(26.9)	(12.3)	
３ヶ月後の 景況予測	1社	20社	96社	9社	4社	130社
	0.8%	15.4%	73.8%	6.9%	3.1%	
	(1.5)	(16.9)	(66.9)	(10.8)	(3.8)	
特記事項						

注　①調査対象会社数は浦安に事業所の無い会社（不在地主など）は除外してあります
②(　)内の数字は前月のパーセントです
③結果表は全品種の動向として集計し、品種別の要因を取り上げる必要がある場合は
特記事項欄に別途記載いたします
④本調査の宛先等の変更は、浦安鐵鋼団地協同組合事務局までご連絡ください
事務局　TEL：047-350-5311　FAX：047-350-5316

景況実感調査(2026年10月)特記事項

毎月、景況実感調査にご協力頂きましてありがとうございます。集計結果は別紙にてお送りしましたが、今月もたくさんのコメントを頂きましたのでお送りします。ご査収下さい。

【お断り】寄せられたコメントは、各社担当者の現場の声です。個々の会社固有の状況にもとづくものも多々あります。業界全体及び浦安鉄鋼団地全体の見解とは必ずしも一致しませんので、お含み置き願います。また、不穏当な表現やわかりにくい表現については書き直しております。信用問題にかかわるものも原則として掲載しておりません。

薄板・表面処理鋼板

① 国内需要は引き続き低調に推移しているものの、メーカーの供給タイト感が一段と強まっており、需給面では慌ただしい状況となっている。需要そのものに力強さは見られない一方、品種・サイズによっては納期の長期化や手配難も懸念されることから、今後の供給動向を注視しながら、早めの材料確保と適正価格での販売に努めていく。

② 建築需要は停滞したままだが、8月、9月の豪雨と台風による高炉メーカーの生産ダウン、ＡＤに絡んだ輸入材の入着減少等により、タイト感が一気に高まり、販売の機会損失が目立ち始めている。

③ 高炉メーカーからの入荷遅れ、新規契約のカット等供給不安により、店売りは売り止めをしている。仕入れ価格も高騰しており、安値での販売は自殺行為になってしまう。一部のユーザーでは回復の兆しもあり、暫く店売りへの出荷はできそうにない。

中板

① 中板は需要面で回復が見られず市中の動きも低調。一方、市況はメーカーの相次ぐ追加値上げに加え、メーカー入荷の遅れなどの要因も重なり上昇基調が更に強まっている。

厚板

① 建設機械は、機種によって増減があり、総体的にみて減少傾向である。店売りは大口の引き合いもなく、小口の積み上げで、売上も減少している。

② 特に大きな変化なし。材料のタイト化の懸念あり。

③ メーカーは大型物件と災害復旧でタイト感はあるが、需要が伴っていないため、値上げがなかなか浸透していない。価格転嫁が難しい状況。

一般形鋼・H形鋼

① 前月9月の売上が低迷し、10月に入り好転はしたが、それでも前年同月比では20%減である。日建連の発表では今年4月～9月の国内建設受注は6年ぶりに前年同期比8%減少となったが、下期に影響なきよう祈る。

② 現場が遅れている。千葉県の集中豪雨の影響がまだ続いていて、日数の埋め合わせができていない。原材料費の急騰等の影響や人材不足は深刻である。

③ 仕入（メーカー、商社）の値上げ分の客先への転嫁が遅れている。

④ 遅れていた納材も徐々に始まり、年度末まで継続見込み。

⑤ 8、9月は天候不順と稼働日減から入出庫共に低迷。足元の出庫は多少改善したが迫力には欠ける。年明け以降の引き合いは増加傾向にある。10月の市況は多少上伸したが、メーカーの累計値上げに対しては、半分程度しか転嫁できていない状況であり、速度を上げて転嫁を進めたい。

異形棒鋼

① 10月のスクラップ輸出価格の上昇（キロあたり48円→52円）でメーカーは強気で販売。市況の上昇を期待したが、需要の盛り上がりがなく、冷めた展開が続いている。

② 11月に入っても動きは良くならない。動いている現場の話も聞くが限定的である。メーカーは値上げを唱えている。

平鋼

① 10月の店売り倉出し出荷は、日割り横這いで推移。建築案件は10月上旬がピークで徐々に物件が減少している。その一方で、産業機械関連や土木案件は変わらず好調を維持している。平鋼メーカーも11月契約で値上げを発表したが、まだ春先のメーカー値上げ分が転嫁できていないので、年内には価格改定を実施していきたい。

② 他品種と同様、盛り上がりに欠ける状態が続く。値上げについても小口当用買い中心で、メーカー値上げの半分程しか上げられず、11月以降の追加値上げで更に状況が厳しくなる予想。

鋼管

① 高炉品種の今年2度目となる値上げ分の改定に向けアナウンス中。需要動向に大きな変化がない中で、景況感としては年内までは横這いの景況と思われる。

構造用鋼

① 需要は、自動車関連で復調傾向も聞かれるが濃淡あり。産機、工作機械は堅調、建機も復調している。在庫は、メーカーの納期遅れもあり、一部歯抜けも出始めている。価格は春先のメーカー値上げ分（トン当たり1万円以上）の価格転嫁を、トン当たり1万5千円の水準で10月中にほぼ完遂した。

その他

＜ナマシ鉄線＞

① 母材メーカー、伸線メーカーからの値上げ要請がきているが、荷動きが悪い状況下で、価格転嫁が思うようにいかず苦戦している。大手、中小企業での収益格差が広がっている。

＜スクラップ＞

① 10月は主に海外需要に支えられ、荷動きは比較的順調に推移。スクラップ発生量も9月に比べ、稼働日数を考慮しても増加が見られた。海外需要は引き続きあるものの、為替や輸出コストが不安定なため、相場の先行きは読みづらい状況となっている。

＜金属表面処理＞

① 10月は紐付き、物件物をベースに計画通りの操業ができた。また、特殊塗装案件を加工したことにより付加価値が向上し売上げが増加。紐付きをベースに安定操業を維持できそうである。

＜電線・ケーブル＞

① 単価、売上高の増加に関しては、国内銅建値の上昇の影響が大きい。